

令和8年度 事務事業評価シート（1）

〔 令和7年度事務事業 〕

一般会計					事務事業分類	A 一般事務事業	
事務事業名	国際機関との連携事業				事業番号	008-065	
担当部署名	文化観光局	局	歴史遺産活用部	部	学芸課		課

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本 計画2025	施策 との 関連	有・無	戦略	1.堺の特色ある歴史文化 ～Legacy～		施策	(3)類稀な堺の歴史文化資源を活かした戦略的な観光誘客の推進		
			有	取組の方向性	①堺の歴史文化資源を活用した滞在、消費拡大促進					
		寄与 する KPI	有・無	指標名	大仙公園エリアへの来訪者数					
			有	現状値	29.4万人(2019年度)			目標値	60.0万人(2025年度)	
	堺市SDGs 未来都市計 画 2021-2025	施策 との 関連	有・無	ゴール	ゴール(8)働きがいも経済成長も			ターゲット	8.9	
			有	取組	茶の湯や地域の祭り、文化財などの歴史文化の保全・魅力発信					
		寄与 する KPI	有・無	指標名	—					
			無	現状値	—			目標値	—	

2	関連計画	—		
3	事業開始年度	昭和 55 年度	点検対象年度（堺市基本計画2030）	令和 12 年度
4	実施根拠	博物館法・文化財保護法		

事業の概要

5	事業の実施主体	堺市博物館					
6	事業の対象	市民及び本市への来訪者				対象数	単位
						—	—
7	事業の目的	アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）との連携事業を通じ、多文化共生社会の実現に資することを目的とする。また、歴史的につながりの深いアジアをはじめとする国々との文化交流を促進し、地域の活性化に繋げることをめざす。					
8	事業内容	IRCI等の研究機関と連携し、無形文化遺産理解セミナー、ワークショップを実施した。また、ユネスコ、日本の無形文化遺産に関する取組や本市の事業を紹介するパネル、リーフレットを作成した。 ○研究機関との連携 ・ユネスコの世界無形文化遺産や堺市の無形文化遺産に関わるセミナー・ワークショップ等を、6回実施。 ・無形文化遺産やIRCIの活動、堺市の普及啓発活動などを紹介するパネル展示を更新して実施。 ・企画パネル展示「日本の無形文化遺産」を実施。（11月4日～3月31日の休館期間、博物館外の4施設で巡回展示） ○広報事業 ・上記事業にかかるリーフレット・チラシの作成や報道提供、『無形文化遺産事業報告』の刊行。 ※国・府の基準より上回って実施した内容					
9	主な支出先	委託業務の受注者					
10	公民連携・協働事業	—					

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

11	成果指標	単位		実績		目標	目標
				令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和12年度
	無形文化遺産理解セミナー等の参加者数	人	目標値	250	300	350	300
			実績値	429	267		
			達成率	172%	89%		
	当該指標を選定した理由	募集予定人数等を目標値とした。					
	目標値の設定根拠・算出方法	参加者実数					
12	活動指標	単位		実績		目標	
				令和6年度	令和7年度	令和8年度	
	無形文化遺産セミナー等の開催回数	回	目標値	5	4	5	
			実績値	5	6		
			達成率	100%	150%		
	当該指標を選定した理由	無形文化遺産の価値を知ってもらうためには、魅力あるセミナーやワークショップ等の開催が必須であるため。					
	目標値の設定根拠・算出方法	IRCIとの協議による共催回数に加え、休日を中心とした日程で現状の職員数で実施可能な回数を設定。					

令和8年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名		国際機関との連携事業				事業番号		008-065			
-------	--	------------	--	--	--	------	--	---------	--	--	--

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。(単位：千円)

	項 目	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度				
		決算		決算		当初予算		当初予算				
13	事業費 (a)	1,648		826		2,166		1,783		1,196		
	財 源 内 訳	国支出金	0		0		0		0		0	
		府支出金	0		0		0		0		0	
		市債	0		0		0		0		0	
		その他 (基金繰入金、物品売払収入)	0		0		0		0		0	
		受益者負担金(使用料、手数料等)	0		0		0		0		0	
	一般財源	1,648		826		2,166		1,783		1,196		
14	人件費 (b)	5,040		4,940		5,360		5,360		5,680		
15	年間経費 (c)=(a)+(b)	6,688		5,766		7,526		7,143		6,876		

事業費の内訳 (単位：千円)

16	事 業 費 内 訳	項 目	年度		事業費	うち 一般財源	項 目	年度		事業費	うち 一般財源
			R7	決算				R7	決算		
		謝礼金	R8	予算	145	145	印刷製本費等	R8	予算	257	257
			R7	決算	72	72		R7	決算	35	35
		費用弁償	R8	予算	104	104	通信運搬費	R8	予算	70	70
			R7	決算	0	0		R7	決算	44	44
		普通旅費	R8	予算	50	50	筆耕翻訳料	R8	予算	70	70
			R7	決算	300	300		R7	決算	924	924
		消耗品費	R8	予算	180	180	展示パネル等作製業務	R8	予算	300	300
			R7	決算	7	7		R7	決算	0	0
		食糧費	R8	予算	7	7	その他(保険料、使用料及び賃借料)	R8	予算	15	15

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

17	区 分	単位	令和6年度	令和7年度
	① 無形文化遺産理解セミナー等の参加者数	人	429	267
	② 上記①にかかる年間経費	千円	5,766	6,219
	③ 単位当たり経費 (②÷①×1,000円)	円/単位	13,441	23,292
	算出についての説明等			

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18	令和7年度には無形文化遺産の理解促進に向け、無形文化遺産に関連したセミナーやワークショップ等を6回開催した。IRCI職員の協力による展示解説の実施やPRなどIRCIとの連携によって費用削減を図り、無形文化遺産の理解促進に繋げた。なお、令和7年度のセミナー等参加者数の減少は、前年度冬季に実施した緞通実演を休館期間にあたり実施しなかったことによる。緞通実演は多くの方に無形文化遺産のことを知っていただく上で有効性の高い事業であることが読み取れ、今後も継続的な実施が望ましいといえる。
----	--

KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）

19	無形文化遺産に関するパネル展示やセミナー・ワークショップを開催し、世界各地の無形文化遺産を紹介することで、博物館の常設展示とは違った角度から堺の歴史・文化や伝統産業の紹介が可能となり、博物館や世界遺産エリアへの来訪者の呼び込みに寄与した。休館期間（11月3日～3月31日）には他の博物館や民間商業施設での巡回パネル展示を計4回（計58日間）実施し、無形文化遺産の理解促進に貢献した。これら事業によって多様な無形文化遺産を多くの方に知っていただき、事業目的である多文化共生社会の実現や、国際的な文化交流を通じた地域活性化に繋げる事業としての役割を果たした。
----	---

令和3年度からの実績等を踏まえた事業の必要性・有効性に係る所見（前年度の事務事業評価で点検対象年度を令和7年度とした事業のみ記載）

20	必要性	■ 高い □ 低い	無形文化遺産関連セミナー等の実施によって無形文化遺産の理解促進に貢献することに加え、展示事業とは異なる関心層の呼び込みや、展示事業との相乗効果を狙うことで、博物館の入館者数および世界遺産エリアへの来訪者数の増加にも寄与することが認められた。特に、多文化共生社会の実現や、国際的な文化交流を通じた地域活性化をめざすうえで、多様な無形文化遺産の普及啓発は必要であり、今後も継続していくべき事業である。
	有効性	■ 高い □ 低い	